

平成28年12月24日

「平成28年度 若杉・駒草会報」

未来を拓く角高生の挑戦

校長 今井 智幸

角館高校同窓会「若杉・駒草会」の皆様には、日頃から本校の教育活動に対しまして、特段の御理解と御支援を賜り心からお礼申し上げます。

旧制中学を前身とする県立角館高等学校と併設を濫觴とする定時制課程、及び高等女学校を母体とする県立角館南高等学校の同窓生の総数は、三万二千有余名、そして統合された新生角館高校の同窓生も既に五百名を越え、県内でも有数の会員数を誇る同窓会となっています。

新生角館高校誕生の二年前のように甲子園出場を果たすことはできませんでしたが、決勝戦まで勝ち進んだ夏の秋田大会では、改めて同窓会を始め、学校関係者、地域の方々の本校に対する声援や期待、愛着の大きさを実感せずにはいられませんでした。また、例年、同窓会員の皆様が本校への志願者を少しでも増やすため、大仙仙北地区の各中学校を訪問してくださっております。母校の発展のため、ここまで労苦を厭わず活動してくださる同窓会の存在を他に知りません。本当にありがたいことだと、職員一同感謝の念に堪えません。

深緑の映える六月に行われた「平成二八年度同窓会東京支部総会並びに新入会員歓迎会」では、各分野の第一線で活躍している多くの同窓会員の皆様にお会いでき、県内外を問わず社会の多方面で活躍する人材を輩出してきた本校の歴史と伝統を再認識する機会ともなりました。

本校は、平成二六年に新生の高校として誕生しましたが、すぐれた調和を内包する「伝統」を有する学校として生まれ変わりました。天摩する若杉のごとく、やがて国家を支える人材たれとする「若杉精神」と、風雪厳しい高山にあっても、なお凛々しく可憐な花を咲かせる駒草のようであるとする「駒草精神」は、本校の校風を日々醸成するスクールアイデンティティの核となっています。それは、変革の激しい二一世紀を生きる力ともなり、新たな歴史を創造する原動力として息づいています。

八月、本校の体験入学に参加した地域の中学生に、初めてクリアファイルをプレゼントしました。それには本校が目指す方向性を示す宣言として、次のようなメッセージを載せました。

未来を拓く角高生の挑戦。

若人こそが、未来を拓き、
ふるさと秋田を担う。

変革の時代にあって、
明日の秋田を拓き、
ふるさと秋田を支える人材を、
角館高等学校は、輩出し続けます。

生徒たちの未来は、少子高齢化や生産年齢人口の減少が加速し、更にグローバル化、高度情報化、人工知能の発達、産業構造の転換等、将来の予測が困難な時代とされています。メッセージの「未来」には、生徒一人ひとりの未来、ここ仙北市の未来、ふるさと秋田の未来、そして二一世紀という未来という意味が込められています。また、「挑戦」には、生涯にわたって学び続ける意欲をもち、志を高く掲げ、自己の能力を磨き、これからの社会を担う気概をもつ人材として成長し、より豊かな人生を創造して欲しいという願いが込められています。

勉学に自ら励みながらも、生徒会行事やボランティア活動、部活動等でも活躍する生徒が増えました。全日制では飾山囃子部と卓球女子個人が、定時制では、バドミントンで男女の団体・個人、卓球で女子団体・個人が、全国大会の出場を果たしています。

定時制課程は、働きながら学ぶ生徒の教育の場として、また、学び直しや社会人の学びなど、多様な学習ニーズに応える場として、一層の充実を図っています。駒草キャンパスでは、五月から県立学校開放講座の「韓国語講座」と「中国語講座」が開始されています。また、六月からフリースクールの空間の学びの場「スペース・イオ」が新設され、本格的にスタートしました。

今後とも職員一同心を一つにして、同窓会、PTA等の学校関係者をはじめ、地域社会とも連携を深めながら、未来を拓く「若杉」と「駒草」を育成していくつもりです。これまでと変わらぬ母校への御指導と御支援を賜りますようお願いし申し上げて、御挨拶といたします。